**第6回中山台地区教育環境適正化検討委員会議事録（詳細）**

**Ⅰ　日時**

　　平成30年2月20日(火)　10：00～12：00

**Ⅱ　場所**

中山台コミュニティセンター　２階　２－１会議室

**Ⅲ　次第**

**１　開会あいさつ**

**２　議事**

（１）中山台地区における小学校の学校規模適正化に関する説明会（意見を聴く会）の結果及び意見・要望への対応について

（２）今後の進め方

|  |  |
| --- | --- |
| 2月20日(火)  3月中旬  3月下旬  4月上旬  4月中旬 | 第6回中山台地区教育環境適正化検討委員会  　説明会での意見に係る議論  第7回中山台地区教育環境適正化検討委員会  地域、保護者説明会  第8回中山台地区教育環境適正化検討委員会  教育委員会 |

　【参考】

|  |  |
| --- | --- |
| 1月下旬  2月  2月下旬 | 説明会  第6回中山台地区教育環境適正化検討委員会（まとめの作成）  教育委員会へ報告  教育委員会で方向性決定 |

**Ⅳ　議事録**

**【はじめに】**

**（事務局）**皆さん、おはようございます。本日はご多忙中にも関わらず、第6回中山台地区教育環境適正化検討委員会にお越しいただき、誠にありがとうございます。最初に、教育委員会の西本管理室長から一言ご挨拶申し上げます。

**（西本管理室長）**　皆様、おはようございます。本日はお忙しい中、お集りいただきまして誠にありがとうございます。本日は、小学校区毎に開催をしてきました説明会、意見を聴く会ですが、幼稚園での開催も含めまして延べ5回開催してきております。その結果につきまして、特に貴重な意見を数多くいただいておりますので、ご協議のほうをお願いしたいと思っています。

説明会には、延べ129人と相当多くの地域や保護者の方が来られております。そして意見も延べ168件ということで多くの意見が寄せられました。

私が思いますには、概ね統合の方向でご理解いただいたと思っておりますが、やはり中山五月台小学校を現状維持したい、校区を見直してでも維持したいという意見や、あとそもそもこういう取り組みが十分に周知されていないのではないかという意見も寄せられております。

これらの意見に対しまして、皆様と教育委員会とで話し合って、当委員会の取りまとめていただければと思っております。本日は最後まで宜しくお願い致します。

**（事務局）**　それでは、議事進行については、座長にお願いいたします。

**（座長）**　おはようございます。今日は少し暖かいと思いますけれども、皆さん体調の方は大丈夫でしょうか。風邪を引かれている方もたくさんいらっしゃるとお伺いしております。今日は第6回目となります。先日、それぞれの校区で2回ずつ説明会を開催しました。それについて、事務局の方から説明をいただくことになります。それでは事務局から説明をお願いいたします。

**（事務局）**　資料の確認をさせていただきます。「第6回中山台地区教育環境適正化検討委員会」のレジュメが1枚あります。横でホッチキス止めされている「中山台地区における小学校の学校規模適正化に関する説明会(意見を聴く会)」が1部です。同じく横止めでパワーポイントの画面を4つ1枚の紙に印刷したもので、これは説明会の当日に使用した資料です。それと、1枚ものの「みなさんのご意見をお寄せ下さい」という紙です。説明会の当日、参加者全員にお配りしました。発言された方もされていない方も自由にご意見を書いて、その会の終了時に回収をさせていただきました。最後の2点申し上げた資料は参考としてお付けしているだけです。主に見ていただくのは、意見の集計表を見ていただくことなります。

まず、冒頭の西本管理室長からもお話がありました参加者数が129人ということですが、延べ5回の説明会を致しました。お話する内容は、全ての会で基本的には同じ内容になります。

中山五月台小学校では、2/3と2/5、中山五月台幼稚園は2/9、中山桜台小学校では2/10と2/13です。

中山五月台小学校では、2日間で52人の方がお見えになりました。これは同じ方が2回来られていても延べ人数ですから2人とカウントすることになります。

中山五月台幼稚園では13人。中山桜台小学校では64人。合わせて延べ129人の方がお見えいただきました。そのうち、小学校の保護者が一番多くて59人です。未就園児の保護者も含めると80人を超す人数になります。

その下の表が意見数です。これは発言された内容も1つの意見として取り上げております。1つの発言で2つの意見を言われた場合は、2つとしてカウントしております。それと、先程の意見用紙に書いて提出いただいたものも1つとしてカウントしております。そこで会場別の項目別の意見です。学校統合というのは、学校統合に概ね賛成の方です。学校統合に反対の方は現状維持です。学校統合や現状維持ではなくて、校区変更のほうが良いという方は校区変更。これは弾力的運用も含みます。違う手法としては小中一貫教育です。施設利用は、基本的に学校統合が前提としての施設利用です。その他は、具体的に手法を発言せずに、検討の方法についてのご意見といったものが一番多く73件です。全部合わせて168件のご意見がありました。

次に2ページですが、意見をグラフにしたものが上の表です。色で判別しにくいかもしれませんが、1番上の薄い色が中山桜台小学校の会場でいただいたもの。真ん中の濃い色が中山五月台幼稚園でいただいたもの。1番下が中山五月台小学校でいただいたものです。

その他を除けば学校統合が最も多く、その次に校区変更、小中一貫教育、現状維持の順です。統合後の施設利用というのは、適正化の手法ではなく、その後の施設の利活用の話になります。

意見の傾向ですが、中山五月台小学校に参加された方のご意見の中では、現状維持あるいは校区変更。校区変更というのは、当然小規模校ですから他地域を取り込むという意味での校区変更が非常に多かったです。特に山手台地域ということになってきます。同じ五月台小学校の中でも地域の方のご意見では、現状維持のご意見もありましたが、統合後の施設利用に関するご意見が多かったです。統合し、中山五月台小学校に子どもがいなくなって、そのまま閉鎖されてしまうのではないか、現在、社会体育団体が使っているものをそのまま継続して使いたい。あるいは町の活性化の為に使いたいというご意見もありました。

町の活性化というのは、施設利用とあともう一つは、小学校がなくなってしまうと町に活気がなくなってしまうという両方の意味合いがこの「町の活性化」の中には含まれております。

中山桜台小学校では、表を見ていただいてもわかりますように、学校統合に関するご意見が大半を占めています。一部校区変更というご意見がありますが、この校区変更は後からも説明しますが、中山台地域全体で考えて、子どもが減少傾向にあるのだったら、仮に学校統合しても一時的な対処方法であって、長期的には、また小規模化になるので、抜本的に見直す必要があるのではないですかという意味合いの校区変更です。地域からそういう意見がありましたので、地域欄を見ていただくと学校統合に賛成だという反面、先程のような意見で、校区変更も必要ではないか、と中山五月台小学校と同様にスポーツ21を中心とするところの施設利用、統合すると中山桜台小学校と中山五月台小学校でスポーツ活動をしなければならないということは、少し窮屈な思いがすると、今良い感じで使えているのに、それを継続して使いたいというご意見で、傾向としてはこういう風に見えてきました。

少し細かく見ていきたいと思います。それが３ページ以後になります。出た意見をあまり要約せずにできる限りそのまま記載しました。

出た意見を公表してほしいという意見もございました。どう取り扱われているかということです。要約してしまうと言われた方が、私の意見が出ていない、我々要約した側は、あなたの意見をこう要約したのですよと言っても見た側は自分の意見が消されてしまっているというトラブルにもなりますので、件数も１６８件と多くはありますが、全文のまま公表できないほどの大きな件数ではありませんので、極力意見を一つにまとめることは避けました。

それと件数をカウントする上でもわかりやすいように、同じような意見も二行建てで表現するようにしました。３ページがまず学校統合です。全部で３４件ありました。全体の２０．２％にあたります。カッコ書きですが、その他の７３件を除いた割合というのが、このカッコ書きの３５．８％です。

ここの内容は、今までこの会の中で協議してきましたので、あまり詳しくは説明しませんが、５ページを見ていただきたいと思います。№２５以降です。前半のほうは統合賛成です、ぜひ早く進めてくださいというご意見で占めますが、№２５を見ていただくと、「人数や子どものことを考えたら統合も仕方がないと思う。しかし、中山五月台小学校の環境を考えると廃校にするのはもったいないと思う。一番は安易に学校を統合して無くしてほしくないと思っている。」統合は仕方がないけれども、あまり安易に考えないでほしいという思いがここに入っています。

№２６のご意見ですが、「自分は卒業生なので、心情的には存続してほしい。」№２８は意見としてですが、学校統合を前提としてですが、「学校統合にも色んな方法がある。どちらかの学校に統合する方法と別の場所に新たに学校を建設して統合する方法がある。」そんなご意見もありました。

№２９は統合を前提に先生方と信頼関係ができあがっているので、できたら先生方も一緒に中山桜台小学校のほうに異動してほしいということです。これは人事案件ですので、こちらでは、意見として採用することはできないのですが、ご紹介としてあげております。

№３０「いずれ統合するという意味では、反対ではない」ということですが、４行目「ただ、６年生で統合した場合、５年間過ごした学校を卒業の年だけ新しい学校になるのは不安だと子どもから言われた。４年生以上は、小学校生活の半分以上を過ごしたことになる」ので、なんらかの配慮が必要ではないか」というご意見もこの賛成意見の中には入っております。

あと６ページの№３３「統合の方向で話が進んでいるものと理解している。現状として統合の必要性も理解している。統合に反対する訳ではないが、統合に向けて保護者や子どもの意見を吸い上げる場所を作って欲しい」ということです。これは説明会とか場を持ってという意味合いだと思います。

下から３行目になりますが、「中山五月台小学校と中山桜台小学校と同じ方向を向いていけるよう、説明会は合同で開催してもらえると良いのではないかと思う。学校、地区別に行う理由はないのではないか。」ということで、地域一体的に考えていけば良いのではないかというご意見もいただいております。

最後ですが、「学校を統合する場合、中山五月台小学校が中山桜台小学校に移るのですか。」というご意見です。これは統合が前提ではありますが、中山五月台小学校の保護者ということになりますが、里山とか環境が非常に素晴らしいので、中山五月台小学校への統合という意味も含めて、検討はしてもらえないだろうかというご意見です。こういった意見も含めた３４件が統合に対して概ね賛成だという意見であります。

それと反対に、現状維持、これは統合に対する反対意見になってきます。全体で１１件です。割合は、６．５％、その他を抜くと１１．６％ということになります。

中山五月台小学校では非常に高い割合になってきます。概ね子どもたちの１０％に近い方が具体的に反対だと意思表明をされていますので、重く受け止めなければならないのではないかなと思うのですが、その中身を見ていきたいと思います。

№３５「小規模校ならではの良さも感じている。子ども同士の関係については、悪い事ばかりではなく、兄弟姉妹のような仲の良さ、関係の深さなど、規模の大きな学校にはない友達関係を築いていると思う。まだ統合は早いと思う。」というご意見です。

№３７も同じようなご意見です。「子どもたちは人数が少ない中で、生き生きと生活している。里山も宝塚市の学校の中では、この学校にしかない。運動場も宝塚市で一番大きい。」ということですが、運動場が一番大きいかどうかは調べてみないとわからないですが、十分な広さがあるというそんなご意見です。

№３８も一緒です。「里山があり、非常に特色があり、豊かな学校である。小規模校ではあるが、仲良く６年間を過ごしている。」

№３９も同じです。「少人数には少人数の良さがある。」

№４０も一緒です。「より良い教育環境を優先してという考え方にはならない。」というようなご指摘もあります。比較的、小規模校でも十分に教育活動としては成り立っていますということと、８ページの№４３以降も見ていただいたら分かると思うのですが、自然に囲まれ、里山があるので子どもたちにとっては良い環境だというご意見なんかがありました。

№４４ですが、URのことです。URとは昔でいう公社や公団のことです。これは公団のことを指すと思いますが、「URが縮小し、空いた土地に大きなマンションが建ったらまた人口が流入して、受け入れがまたしんどくなってくるのではないですか」というご意見ですが、近年の住宅状況からあまり急激な増加は見込めないのではないかなと思います。集合住宅は、駅前に建つ傾向で、山手のほうは戸建ての傾向にありますので、あまりそういう人口の急激な流入の傾向はないと思います。

それと、そういった情報がまだ今ありません。こういった情報は、入ってから相当、年数が経ってから着工されるものです。こうした集合住宅は政策空家と言って、順次空き家を待って、けっこう空けばどこかに統合して団地一棟や二棟を潰して、そこに何かを建てるということをしていきますので、結構時間がかかります。今の段階で何も情報がないということですから、URの再開発は今ここでは視野に入れなくても良いと思います。相当、先の話ではないかと思います。

次は通学区域の変更です。最初のほうに書いてあることは、中山五月台４丁目とか中山桜台６丁目というごく一部を中山五月台小学校側に取り入れたらどうですかということですが、この会でも検討したように、一部地域を取り入れても中山五月台小学校の適正化にはあまり影響しないという状況がありますので、なかなか難しいかなと思います。

見ていただきたいのは、№５１です。冒頭でも少しお話しましたが、社会体育団体の方からのご意見ですが、「適正化は必ずやるべきだ。ただ個人的には校区変更が良いと感じている。その理由は、人口が全体的に減少する中で、統合しても将来的にはまた減少する。問題の先送りように感じる。したがって長尾地区や山手台地区の人口の多い地区を校区に入れなければ子どもは増えない。そのために校区変更をしたほうが良い。」

№５３でも「問題の先送りなので、統合より全体的に校区変更が必要だと思う。」というご意見です。広い意味での校区変更をしたらどうですかというご意見がありました。

№５６以後が、通学区域の弾力的運用です。主に、中山五月台中学校で通学区域の弾力的運用をしている。それを小学校でもやってはどうだ。山手台地区から中山五月台小学校に弾力的運用をしたらどうだ。その理由は中学校から弾力的運用をしても、小学校６年間を山手台小学校で友達関係を築いた中で、中山五月台中学校に進学する人はいないだろうと。小学校の時から弾力的運用をしておけば、中学校でも来てもらえるのではないか。そう意味では、小中と上手く連続性が持てて、小学校でも適用してはどうですかというようなご意見が非常に多くありました。

あと、№６２は、校区の変更は多くの課題があり、選択肢としては難しいが、市内全体としてはアンバランスなので、市内全体の通学区域を見直してはどうですかという風なご意見が一部ありました。

弾力的運用の方が件数が多かったのですが、弾力的運用は効果が見込めないということと、校区変更も地域を指定されたご意見については、子どもの人数的にはあまり効果が見込めそうにもないと思いますので、もし校区変更するのであれば、抜本的な校区変更になります。そうすると時間がかかってくる、他地域への影響も出てくる、その合意に至るまでの時間、合意に至らないケースも出てくる、そんな可能性が十分に出てくると思います。

№６５以降が小中一貫教育です。小中一貫教育は進めていってほしいという意見が大半です。これはまだ具体の検討が進んでおりませんので、今具体的なお答えができないのですが。

№８０は、良いことばかりではなく、色々な課題もクリアできていないでしょうというご指摘も含めてご意見がありました。

小中一貫教育については、否定的な意見も入った１６件であるということになります。我々も研究し尽しておりませんので、過去に1度文部科学省の資料を元に説明させていただいたことがありますが、それだけですから、今後しっかりと皆様方にもご説明できるように情報を蓄積していきたいと思います。小中一貫教育は今後の具体的な検討課題だという認識になっております。

№８１以降が、統合後の施設利用で、１５件あります。８．９％です。その他を除けば１５．８％で、非常に割合の高いところです。これは統合したという前提のご意見になります。社会体育団体の方が中心に、現状の社会体育団体が縮小することになるので、活動の場を確保してほしいというご意見になります。

あとは、高齢化が進むので、町の活性化の為にというようなご意見が多くなっております。

ただ、これは統合なのか、校区変更なのか、決まってからの議論になりますので、今後の検討課題になるということと、併せて、もしこのまま統合という方向でいった場合においても、中山桜台小学校の方へ統合するという仮定の話ですが、学校でなくなると教育施設でなくなりますから、次の段階は、教育委員会だけで議論することはできませんので、ここは広く市として活用方法については議論しなければならないと思いますから、この場に市長部局の担当職員も出てきながら色んなご意見をお伺いするような検討になってこようかと思います。

ですから、ここでは、今後の検討課題だというような表記にしております。またお読みいただきたいと思います。

次にその他ですが、１４ページの№９６、９７、９８等は質問形式です。統合する場合いつを目途にしているのか、スケジュールは決まっているのか、スピード感を持って進めようとしているならいつ頃になるのか、というようなご意見です。

当初、これらの意見を統合の意見のほうに入れようかと思いましたが、単なる質問ですから、これを統合の意見に入れてしまうと統合ありきで進んでいるというご批判にも繋がりますので、質問だったので、その他に入れました。

№９９、「最短で３２年度と説明があったが、具体的に実施年度がわかるのはいつですか。」これは、目標年度は４月から５月頃に提示できるように準備を進めます。と書いてありますが、これはあくまでも課題が整理できた場合ということです。４月５月にすぐに答えが出るというわけではありませんが、ただ方向性が決まれば、一定の目標年度は早期に決めないと、だらだらと検討になりますから、校区変更であったとしても統合であったとしても同じだと思いますので、できる限り早期に方向性が決まれば、この年度を目標に取り組んでいこうというものは設定すべきだという考え方からこういう表現になっております。

それと№１００、そろそろ具体的な方策を出すべき。具体的な内容が見えてこない。何か例示でもいいから出していくべきだということですが、基本的にはこの検討委員会では、学校統合でという説明はした上ですが、そういったご意見もありました。

№１０３を見ていただくと、多少のご指摘も含めてになってきますが、「宝塚市の中では小規模になるが、全国的には小規模に当てはまるのかどうか、もう少し検討する必要があるのではないかと思う。」ということです。これは回答欄のところにも書いてありますが、たしかに全国的には、小規模校は山のようにあります。兵庫県下だけを見ても山のようにあります。ただ住宅都市、市街地においては非常に少ないです。今、兵庫県のホームページを見ると、学校の規模、児童数というのが出てきます。それは平成２８年度のデータしかありませんが、この阪神間で、三田や猪名川は除いてになりますが、全学年単学級というのが、尼崎市で２校、宝塚市で３校でした。宝塚市の３校というのは、平成２８年度ですから西谷と光明と中山五月台です。平成２９年度は光明小学校は１年生が２学級になっておりますから、全学年単学級からは外れますので、尼崎で２校と、宝塚で２校です。その他の自治体ですが、川西、伊丹、西宮は、全学年で単学級という学校はありません。その中でも、１２０人を下回るのは南阪神では中山五月台小学校と西谷小学校だけだったということですから、西谷はこの長尾連山より北側と考えれば、長尾連山より南側ではこの中山五月台小学校が一番小さな学校ということになります。じゃあ西宮とか尼崎にそんな学校がなかったのかというと、過去はありました。ただ西宮と尼崎については、学校規模適正化で統合が終わっているので、小規模校が解消されている状況になります。

あと、お叱りの部分もありますが、№１１３です。「この様な現状になったのは行政の責任ではないか。もっと早くから読めていたのに、何の政策も取らずに来た宝塚市の責任だと思う。」というご意見です。その下の№１１４です。「２０１６年の１０月から話し合いが始まったということであるが、１０年前から見えていた話ではないか。」というご意見です。

次のページ、１６ページの№１１５、№１１６、№１１７等もご指摘になります。特に№１１６は、土曜日の説明会にも参加した方です。これは中山五月台小学校ですから３日と５日になります。５日のご意見だと思います。両方来られたけれども、淡々と説明していたが、１０年くらい前から、中山桜台幼稚園が廃園になった時からこういったことは予測できていただろうということで、しっかりと行政側の予測も含めてすべきではなかったのかという我々側への指摘ですので、真摯に受け止めていきたいと思います。

１７ページの№１２４と№１２５ですが、特別支援学級の関係の保護者から心配も含めてご意見がありました。車で通学ができるのかとか特別支援学級の交流を考えてくれているのですかということで、これは統合なり校区変更の場合でもそうですが、特別支援学級のお子様については、特に子どもが適応するのかどうかというところの心配がありますので、十分に配慮していかないといけないというのはこのご意見の中から感じ取ることができました。

あとは、進め方の中でも考え方、検討の仕方のご意見も非常に多かったですが、ちょっとこの中で議論することかどうかということなのですが、２１ページの№１４７、１４８です。色々と書かれていますが、この地域の真ん中の広い通りで車が飛ばしてくるので危ないと、ですから色々な校区変更であったり、学校統合で通学路が変わってくるけれども、車の走り方も非常に危なくなってきているので、注意してほしいというご意見もありました。

２２ページ以後で、ご意見の最初に黒丸●をつけています。これはこの検討委員会で議論することではない意見です。例えば、後半は幼稚園の話です。今回は小学校についてということですから、適正化検討委員会で議論することかどうかということは横に置いておいて、小学校の規模適正化については、この幼稚園の問題やセーリオさんも来られていました校区の問題がありました。ただ実はセーリオの方は、全て中山桜台小学校に来られておりますので、校区変更すると確実に中山桜台小学校に来ていただけるからそれはそれで一つの効果としてはありますが、これは自治会の中の問題ではないかなと思いますので、ここであまり深く議論することではないということで、黒丸●をつけております。

こういうことで、事前にお配りして読んでいただいてから、今回ご意見をいただければ良かったのですが、この取りまとめ、表にするのに、発言された内容をテープおこしするのも延べ６時間、７時間くらいかかりましたので、ちょっと時間がかかり事前にお配りすることができなくて申し訳ございませんでした。意見の傾向としては、今申し上げたとおり、学校統合が一番多くの意見としてはありました。ただ中山五月台小学校では、情緒的な部分、心情的なところで学校を残してほしいという、母校を守りたいという思いも含めて、環境というところも意見ではありましたが、残してほしいという意見があった。それと、施設の利活用も大きな問題としてあるということがこの意見から分かりました。説明は以上です。

**（座長）**　今、ご説明いただきましたけれども、これについてご質問やご意見はございませんでしょうか？

両小学校と幼稚園のほうでたくさんのご意見いただいたものを、時間をかけてまとめてくださっています。一つ一つのご意見は、この検討委員会が出来た時に我々が感じたことと全く同じことを皆さんも感じていらっしゃるのだなという風に私は感じて読ませていただいております。

ただ、我々の検討委員会の中では、そういった最初に思った事柄も、市のほうからの説明を基にだんだん考えがまとまってきたということで、統合ということで話を進めようかという途中の、地域への投げかけということですけれども、今、意見を読んでご質問ご意見ございましたらよろしくお願い致します。

**（事務局）**　特に現状維持の意見がこの検討委員会の方向性と少し違った方向性のご意見ですので、これについて汲み取るところがあるのではないかとか、そういうところがあればご意見いただければと思います。

**（委員）**　現状を考えれば仕方がないと思いますが、私も何十年も前に分離を経験しました。中山五月台小学校が開校される時、入学式は中山桜台小学校でして、友達関係もようやく整ってきたところで、分離ということがありましたので、６年生で統合した場合、№３４を意見を読んでいて胸がすごく痛くなりました。子どもたちの気持ちというものが大切な時期、その移行する方法をよく考えてやっていただけたらいいなと思います。

**（座長）**　ありがとうございます。他にご意見ございませんか。現状維持という意見が出てきたというところでは、今ご意見があったように、子どもたちの環境を変えてほしくないという気持ちは、たしかに汲むべき点ではあるかなと思います。ただ、聞こえてこない声にも耳を傾けないといけないなと思うのは、現状維持ではなく、早くたくさんの子どもの中で自分にあった友達を選びたいという、そういうご意見があるということも聞こえてこない声としては届いております。

修学旅行も少人数でなく、大人数でという意見があったということも以前聞いておりますので、その時その時のご意見に左右されてはいけないけれども、その辺も含めて今後の手段というものを考えていかないといけないのかなと思います。

**（委員）**　色々言ってすみません。ちょっと矛盾するかもしれませんが、単学級というのは、子どもたちの学年が変わってもずっと同じクラスでいくわけですよね。子どもたちも個性がありますので、友達関係で問題が起こることもあると思います。そういう時に同じ学年で複数クラスがあって、クラスが換わっていくということで、新しい友達関係ができるという考え方も。色々とこういうお話を聞いておりますと、大人の目線で物事が考えられていくのが通常です。現実的にはそれは仕方のないことですが、子どもたちと関わってきまして、子どもの立場というか子どもの気持ちからはどうなのか、子どもの立場になった時にどうなのかと。複数のクラスになると、人間は相性というものがあるので、A先生とB先生がおられて、単学級だとやっぱりA先生で日向にいる子ども、日陰にいる子ども、多少、こうした状態ができると思います。それがクラスが換わることによって、B先生になることによって、日陰にいた子どもが日の当たる場所にいったり、クラスが変わることで人間関係が変わることは凄く大切だと思います。子どもの未来を見据えてほしいです。世の中に出ていき、色々な人と関わりあっていく為には、子どもたちは色々な人たちとも、違った人たちとも、新しい人たちと交流というのはとても大切だと思いますので、ある程度の人数、複数の学級がある学校で学ばせてあげるのが良いと思います。これは私の考えです。

**（座長）**　ありがとうございます。その他、小学生をお持ちのお母様方もご意見ございませんか。

**（委員）**　№１３９に書いてあることですが、説明会に来ている人は慎重派が多いのは“説明会あるある”だと思います。幼稚園には、園児のお兄ちゃんやお姉ちゃんが中山五月台小学校の方も中山桜台小学校の方もいらっしゃいますが、少し聞いたのは説明会に行きますか？という質問に対して、行っても統合でいいから、反対であるのであれば行くけれども、賛成だから勝手に進んでいくよね、という話を聞いた。説明会に行って発言される方で現状維持が多かったというのは、それもあるのではないかなと思う。統合でいいから、説明会には特に行かなくて、そのまま進めてもらったら良いという話をしている方がいらっしゃったので、そういう人たちの声をすくいあげる為には、説明会に行ってというよりも、紙を配られて、そこに書く方が協力してもらえるというか、自分の意見を書こうかなという気持ちになるのかなと思いました。

**（座長）**　ありがとうございます。今、№１３９のご意見のもとにアンケートを取ってはどうでしょうかというご意見をいただきました。他、ございませんでしょうか。

**（委員）**　先ほどの意見と少し重なるのですが、役員として、この前もこの会でお話をさせてもらいましたが、任期が１年の役員として参加している立場からすると、この場にいることも責任が重いというか、説明会に参加して、余計にそう思いましたが、個々の保護者の意見の吸い取り方が、どうしたら良いのかという迷いと、こういうところで聞いた意見も資料や発言の公表範囲というか、そこまで下ろして良いのか、各学校で行っている運営委員会で伝えて良いのか、そういう判断が難しくて、できれば広く知っていただければと思いますが、現状私たちは関係ないようねとか、この先の年代が決めた方が良いというのもあって、結局慎重になると、なかなか伝わらないまま進んでしまって、一応こうして参加させていただいていますが、説明会までこんな話になっていることを知らなかったという方が私の周りには多くて、先ほどみたいな広く保護者の貴重な意見を伝えやすい方法をやっていただけたらと思っております。

この検討委員会がこういうことをしているよということを、どこまでお話して良いかということを、できれば教えていただければ。各学校で判断してくださいということでしたら、私たちが判断しないといけないと思いますが、そういう目安になるものがあれば助かります。

**（座長）**　そうですね。人によって説明の仕方が違ったり、選ぶ言葉が違ったりすると、そこから違う解釈が生まれてきたりもするので、統一した文書のようなものがあれば良いのかなということですね。他にありますでしょうか？

**（委員）**　中山五月台幼稚園で開催された説明会に行きました。他の説明会に行けなかったので、現状維持が多かったことに驚いています。ただ、人数を見ていると中山五月台小学校の説明会のご意見では学校統合、現状維持、校区変更はそんなに変わらないのかなと思いました。

中山桜台小学校の方で少なかったという意味では多いと取られているのかもしれないですが、人数的にはそんなに変わらないのかなと思ったりしながら見ていました。

私の周りでは現状維持の意見が少ないので、一般の保護者さんもたくさん役員以外もいらっしゃいますので、そういう意見もあったんだなという思いの中で、今後の方向性は決定ではないので分からないにしても、正直、先程からお話があがっていたように、一般の保護者さんになかなか伝わっていないというのがあると思います。

今回も説明会があって、具体的な協議の始まりだと思っている方がいたり、あと小さいお子さんをお持ちの方で土曜日とか夜には出てこられない方というのも聞いていました。

私は皆さんに考えてほしかったし、知ってほしかったので、ミマモルメの一斉送信で、説明会の開催と、あと、こういう段取りで決まっていきますという文面も入れて送らせていただきました。しっかり皆さんにも考えていただきたいなという思いもあったので。

中山桜台小学校とやり方が違うと思います。私たちは中山五月台小学校なので、でも皆さんに同じようなお話を、それぞれの違った言葉や人を介すと違ってくると思うので、同じような感じで、各学校の保護者さんにも知っていただいた方が良いのではないかなと思いはあります。

子どもたちがもちろん第一で、大前提に子どもたちの為ですが、やっぱり大人も考えていかないといけないので、やっぱり保護者に参加していただかないといけないというところで、ここを考えてくださいとか言っていただいた方が皆さん分かっていただきやすいのかなと思いました。

**（座長）**ありがとうございます。やはり保護者の方が自分の子どもの行く学校が変わるということに不安も持って、マイナスのイメージでいらっしゃると、それが子どもにも伝わって、子どもが新しい環境に行く中で、最初からマイナスのイメージで、新年度を迎えるというのは避けないといけないと思います。やっぱりそういう意味では保護者の方にもプラスのイメージで、統合になるのであれば、そういう気持ちに理解をしていただけるように、それはこの会からの発信で、それぞれの保護者にご納得をいただくような説明をしていかないといけないのだと思います。

現状維持という意見が多いというその一つには、どうして現状維持ではいけないのかということの、その説明が行き渡っていないと感じました。その辺りの保護者への説明が、そこの会議に来れなくても手に取って理解していただけるような、そういう細やかな対応をしていく必要があるのかなという風に今思っています。

果たしてそれが今後の進め方に相応しいかどうかということも、また検討していただかないといけないのかなと思います。他にご意見ありますか。

**（委員）**　これは中学校からも小学校に子どもさんがいるお母さんからも良く聞かれる話ですが、小中一貫校という言葉が、もう先に歩いています。これありきで皆話をしています。そういう風に聞いているみたいな感じで受けています。

説明会でも小中一貫校という言葉を出ていました。それありきで、この統合をとりあえずするみたいな話に皆親は思っている。だから小中一貫校という言葉を出すのであれば、やっぱりどれだけかかっても１０年はかかるとか、何か指標を出さないと、これをやるけど先にこっちもやっとくんですよみたいな受け方をしているから、それだったらもう少し待っても良いのではないかという話も出ています。

言葉を出す以上、何かしら責任を持ってちゃんと指標を持って、これだけ言葉が動いています。小学校の人は、先にそっちをやってよという人もたくさんいます。だって何回も統合するのは嫌じゃないですか。子どもたちコロコロ変わるでしょ、そういう話もたくさん聞きます。

言ったからには責任を持って言っていただきたい。中学校の親も小学校の親もそこを凄く不安視されています。私も中学校と小学校に子どもがいますが、不安というか、施設の後利用も全部含めて指標を出していただかないと、統合したら後はほったらかしですよみたいな印象を受けています。全部を出して、だから統合って良いのですよというくらいのことは言っていただかないと、統合して何が良かったのというような印象しか保護者も地域も持っておられないのではないかなというのを凄く聞きます。

できればもう少し具体的にきちっと確実性のあるものをお話していただきたい。検討します検討しますだけでは、聞いているだけ受け付けてもらっているようなイメージは受けていません。以上です。

**（副座長）**　小中一貫校について、この会議で、３回か４回前に出ています。それで、小中一貫校について勉強しようということでやりました。そのときに教育長が来ていました。私の方から投げかけはしましたが、この延長線上に小中一貫校というのが、議会でも取り上げられているということで、方向性はどうなのかという話をしたら、教育長は非常にその方向性は市としても持っていますと。具体的にやれるのは、小中一貫校は色々タイプがあるけれども、できるのは中山台ニュータウンでしょうねという話もあって、小中一貫校はこの中でも論議をされたことがあります。市議会でもその話は出ているし、この中で論議をした中で、私の受け取りとしては単に統合して終わりではない、その先に小中一貫校という話も含めてあるということが、非常に意味があることだと、この検討委員会の中でも意見としても出て、組み立てをする為には検討すべき課題がたくさんあると、宝塚では初めてだから。

でも、その方向性が出ればその検討にも入っていくという話では来ているので、この委員会としては論議をしているし、コミュニティ１１という中山台コミュニティの新聞も昨年１１月ですが、ここでの論議のその時点での検討について、結果を出しています。これは、このニュータウンの中で基本的には全配布しています。

だから意見の中でも知らなかったというのは、コミュニティとしては努力をして全校に渡しているので、これ以上どういう努力をすれば良いのか。知らないと言われると辛いです。

**（座長）**　どうせ小中一貫校にするのであれば、その時に統合すれば良い、一気にということですよね。

**（委員）**　今、学校に子どもを通わせている親にとっては死活問題です。いずれとか何かよくわからないけれども、とりあえず統合とか、検討に入れていますとか、検討とはどういうことですか、きっと保護者は皆そう思っておられると思います。

**（座長）**　私のイメージする行政は、市長が変われば方向がガラッと変わってしまう中で、継続してお仕事をしておられる役所の方に取ったら、全てが検討になるのかなと思ってしまうのですが。

**（委員）**　○○さん（委員）がおっしゃっていることも副座長がおっしゃっていることも分かります。だからこそ、それも含めてみなさんに下りていないです。ここでの会議の話が。だから分かないから、知らないから、そういう意見が上がってくるのです。私の周りでもそうです。中山桜台小学校にもお友達がいますし、中学校にも良く知っているお母さんはいますし、やっぱり私も聞きますが、下りていないです。情報不足です。そこだと思います。

**（副座長）**　私が言っているのは、その責任は市じゃなくて、僕らにある。住民にあるし、PTAにあるし。

**（委員）**　ただ、PTAはボランティア団体なので、そこまでできないです。

**（副座長）**徹底することについては、コミュニティだってボランティア団体です。無給でやっていますから。意見の中でも１０年前から知っていたのではないかという意見がある。

私はコミュニティの役員をやっていると、そういう風にほったらかしにしていたのは誰かと、我々じゃないのか。我々が気が付いていたのではないか。その責任は市にももちろんありますが、住民にもあると思いませんか？　市が一方的に悪いのですか・・。

**（委員）**　すみません。今、そういう話をしているのではないのです。説明会に来ていただいたんですよね。皆凄い不満爆発で、帰ってきたのです。それが良くないでしょという話をしているだけです。

**（副座長）**　僕が言いたいのは、だから僕らの持っている情報は自分の立場でどんどん公開したらいいと思います。

**（座長）**　PTAにしたら自分の立場でというのが、どういう言葉を選べばいいのか・・。

**（委員）**　やっぱりPTAにとっては多分難しいです。私は中山五月台小学校なので、中山五月台小学校のことは責任があるし、やるけれども、他の学校さんで、どういうことをやっているか正直知らないし、それを同じスタンスで同じことを下ろせと言われても足並みも揃わない。

一緒にやりましょうと何回も言ったことはあります。○○さんと何回も話しています。でもやっぱり中山桜台小学校は違うというのがありました。だからここだけでもできなかったです。

だからそういうことも含めて、ここの会全体で、どういった形で下していけば良いのか、どういった形で進めていけば良いのか、私たちはどうすれば良いのかという、細かいところも含めてやっていかないといけない問題だと思ったので、意見として上げさせていただきました。

**（座長）**　初めのころに統一の文書のようなものがあった方が説明しやすいよねという話を私はしたような気がするのですが、やっぱりそれは今の時期かなという気も・・・。

**（事務局）**　実は、資料の１５ページ見ていただくと、№１０８と№１０９にもここで聞いた意見をどう取り扱うのですか、しっかり地域のほうに意見が下りていないというご意見を説明会の最初の日にいただきました。

私たちも学校統合に関わることやその他の教育案件でもそうですが、地域と一緒に検討会を持つようなことは他市の事例でもあります。我々もこういう検討委員会を進めるにあたっては、他市の事例を参考にしております。どこともその所属団体、あるいはその地域の隅々まで、その会議の内容が周知されないというのが課題だと理解しております。その中で、今回こういうご意見もいただきましたので、我々も何か提案をしないといけないなという風に考えておりまして、先程座長の方からも、決まった一つの文書があれば良いなというご意見もありましたが、実は市のホームページにこの会議が終われば、資料と議事録は掲載しています。しかしながら、ホームページを見ていただきたいと思っていても、その術がない方もいらっしゃいます。また、資料を見たり、議事録を読み込んでいくことは、時間的も困難ではないかと思います。

今後、会議内容を要約した１枚ものの回覧が出来るような、例えば「適正化通信」みたいなものを、表裏１枚くらいのもの作成し、これはPTAはPTAで回覧していただいて、あるいは地域は地域で回覧していただいて、というような形式で今後、どこかの段階で、この適正化について議論した内容を取りまとめして、回覧できるように我々がしっかりやっていかないといけないなと思いますので、他市の事例も参考にしながら、検討します。

**（座長）**　ありがとうございます。説明会での意見書の扱いについては今後も色々考えていかないといけないかなと思いますが、それも踏まえて、この委員会の今後の進め方も共に考えていかないといけないと思います。それから先程のご意見があったアンケートというのは、どうでしょうか？

**（事務局）**　それは保護者を対象にということでしょうか？

**（座長）**　保護者を対象にということですね。先程ご意見があったのは、保護者を対象にアンケートということでしたね？

**（委員）**　私が聞いているのは、幼稚園の保護者です。

**（副座長）**　アンケートのイメージはどんなイメージですか？

**（委員）**　シンプルに、統合に賛成なのか、統合反対で現状維持なのかということを。自分の中では、統合で進むのであれば統合で良いのだけれども、説明会で統合に賛成ですよと声をあげるほどでもないという方が何人かいらっしゃって、統合に賛成だったら説明会に行って統合に賛成ですと言うだけでも意味はあるよという話をしました。

**（座長）**ありがとうございます。もしアンケートを取ると、現状維持を望む声の方が多いと思いますが、ただこの会が検討していっていることはより良い教育環境・・・。

**（委員）**　お話中に申し訳ないです。アンケートを取られると現状維持ではない声が上がってくるのではないかなと思います。先程これを読ませていただいて、説明会に来られる方はきっとご意見を持ってらっしゃる方が来られた、少人数だったので。ご意見がない方は統合の方に向かって進んでもらって良いかなという強い意志ではなく、それでいいよという気持ちの方が説明会に来られなかったのではないかなということで、こういうご意見を書く紙を中山桜台小学校、中山五月台小学校に配っていただいて、書いていただけるかわからないですが、統合に賛成です、反対ですという声が吸い上げられるのではないかなと思うので、座長がおっしゃった意見がある方の声が多いとは思わないです。

**（事務局）**　ちょっとよろしいですか。アンケートという方法は、一番皆さんの考え方を伺えるということで、非常に利点はありますが、ただそれを取ることによって、明らかに賛成の方と反対の方というのが明らかになってきて、例えば賛成の方が８割あれば総意として決めていこうじゃないかとなった時には、反対の方が２割ある中で、それを明らかにした中で、賛成が多いということで統合でいこうということになるので、本当に最終的な手段ではないかなとは考えております。

それより、副座長がよく言われるようにしっかりと論議を尽くしていくと、その過程を大事にしていくべきかなと。ただ残念ながら、説明会を開催するとおっしゃられるように、反対のお気持ちをお持ちの方が、そこで意見を述べたいという方が出てこられて、消極的であったとしても賛成の方は、他の人に任せたら良いのではないかという気持ちで参加されないというのが、常にあります。

その辺が非常に微妙なところですが、アンケートというのは、最終的にどの方向に進んだら良いのかわからないという究極の手段ということで考えていただいたほうが良いのではないかなと加えておきます。

（座長）　今、こういう意見をいただきました。まず、保護者に理解をしていただくことが、一番大事かなと思います。その最終段階で、どうしても賛否を確認しないといけないようなことになったらアンケートという方法も選択肢として一つ残す形で、この検討委員会としては進めていった方が良いのではないかなと思います。論議を尽くすということが、一番ということでは、・・・

（委員）　お話中すみません。アンケートを取るということは数字を出すということだと思います。統合賛成、統合反対という２択をアンケートとして取ったほうが良いのか、意見を出せる場としての、説明会に来ていただくのが一番ですが、素朴な疑問であったり、統合するとどうなるかというイメージの中で沸いたものを吸い上げるものとしてはダメですか？

**（座長）**　私のイメージするアンケートというのは、最終の結論を出すためのアンケートというのも必要だけれども、どちらに向かって進んでいっても不安がある中での、ここの会議に出て意見の言えなかった方の意見も吸い上げて、それでどうしても自分の意向に沿わない方向になっていかざるを得なかったとしても、せめて自分の不安は解消されるような、そういう少しの安心感を持って、そういう方向性に理解していただく為には、そういう意見の吸い上げの場というのも必要かなという思いもあったので、ものすごく大きな意味でのアンケートと私は思っていたのですけれども、でもその前にまず説明し、理解を求めるということが大前提ではないかと思いますので。

（副座長）アンケートってすごく難しいですよね。設問もどういう設問を作るのか。統合賛成、反対、どちらかといえば賛成とか、結構アンケートってどちらかといえばとか、絶対とか、そうジャンル分けされているので、自分の気持ちがどれに当てはまるか選択するだけでも大変じゃないですか。

設問によっては、極端な例では、統合前提として論議しているけれども、これに賛成ですか。という設問をしたとしたら、今論議しているからアンケートとしては賛成にした方が委員会はまとまりやすいのかなという風に恣意感を感じるようなアンケートもね。だから難しいですよね。

この検討委員会のそもそもスタートの目的を考えると、行政が一方的に教育環境のことを決めるのではなくて、住民と一緒に適正化の手法ということについて、協議・検討して具体的な方向性を教育委員会へ報告することを目的としている。

だから、ここで論議して、教育委員会と戦おうという前提ではないです。コミュニティの概要もそうです。手を結ぼうとかいう話ではなくて、この委員会の位置付け自体が、一定の結論を出して、この方向性でどうかということを伝えるという目的であって、絶対反対というのだったら別の統合反対同盟とかを作って、行動を起こすという別な場だと思う。

この場は、そういう場なので、我々が意見をまとめきれないので、全員の意見を聞きたいのだと、そこで決めたいのだというのだったらアンケートは有効ですが、この論議の中で一定の方向性は決められるよね、ということであれば、決めていったら良いと思う。

何千人の意見を聞かなくても。それは私たちも責任を取らないといけない。この委員会が。それは最初に言ったように、そうですよ、責任取るのですよ。言いっぱなしではダメです。やっぱり自分たちが、色々な問題があるけれども子どもたちの立場に立ったら一番良い解決策は何だろうということにおいて絞ったらまとまれるでしょうと。

地域の都合はあるけれども、それは２番目にしようと。ないことはないので、切り捨てるのではなくて、親の都合とかは２番目にして、子どもが一番良い教育環境は何が良いのかということをまとめられるなら、まとめましょうということです。アンケートは最終手段にして良いと思うのですが、また1年くらいかかると思います。設問作るのにすごく時間いりますよ。

（座長）　実際にアンケートに２年くらいかかっても、実際に統合が動き出すのが、２年後とすれば、方向性を一旦決めた上で、また皆さんのご意見を伺うという場面があってもいいのかなと思います。あと、具体的に地域や保護者への説明会が必要なのかとか、色々な問題があるとは思いますが、今後の進め方のところで、２月２０日本日で、３月の中旬にもう１回、まだ結論は出ておりませんので、もう一度皆さんに集まっていただいて、検討していかないといけないところ、また攻めていかないといけないかなと思いますが、そのままこの順番の流れでいくと、４月にかかってきてしまいます。皆さんの所属している、例えばＰＴＡや育友会等は、それぞれの役員さんの任期というものがあると思うので、任期をまたいでしまうと、また一からの積み上げになってしまうのかなという気もしますので、できれば任期中にある程度の方向性を出しておいた方が良いのかなと思ったりもします。

**（事務局）**　今後の進め方ですが、今、座長から説明をしていただいたのですが、この第７回目の検討委員会を予定している理由は、説明会でいただいた１６８件のご意見を吟味していくための時間が十分ではない場合に、第７回目を開催して吟味することを想定しておりました。

地域・保護者説明会ですが、先程のご意見の中で出たアンケートも地域への理解や地域の反応を見るための一つのツールとして有効であると思いますが、事務局から提案させていただきたいのは、説明会において出たご意見やご感想を見ておりますと、幾分か反対される方や不安に思われる方がいらっしゃいました。そこで、この会の基本的な進め方は「論議を尽くす」でした。しっかりと議論していくという姿勢がこの会の姿勢だと思いますので、これは地域に対しても同じような姿勢で臨んでいくべきではないかと思いますので、もう一度、ここで議論したことについて、学校毎でするのではなくて、このコミュニティセンターも使えるようになっておりますので、コミュニティセンターを使って、説明会でいただいた意見に対するこの委員会の見解をお返しするための説明会を開催させていただいて、しっかりと意見を受け止めて、こう考えたのですよということをお返しすれば、地域の皆さんや保護者の皆さんの理解につながると思います。

その説明会で余程大きな反対がなければ、最終的にこの検討委員会のご意見と、地域の意見ということで、まとめていただくことが可能ではないかなと思います。

これで良いということであれば、３階の多目的ホールの都合を見てきたら、３月１７日、あるいは３月３１日の土曜日であったらこのホールが空いているということです。

もし、３月１７日にご意見をお返しする説明会が可能であれば、最終的に意見を取りまとめる、まとめを作るのは、年度内には可能ではないかなと思います。特に今日出たご意見で、やっぱり考え直した方が良いというご意見がなければ、適正化検討委員会で検討してきた、想定していた範囲内だなということであれば、これ以上議論しても仕方がないところがありますので、一旦この意見については議論を終わって、しっかりと地域にお返しする機会を持ち、最終的に３月の下旬くらいに、この適正化検討委員会を、説明会の後に開いて、それをまとめとするというそんなスケジュールも考えられるのかなと思うのですが、皆さんのご意見いかがでしょうか？

**（委員）**　２月の説明会に参加された保護者の方に少しお伺いしたのですが、統合するのは、平成３２年度に統合することになったから良かったよねっていう風におっしゃった保護者の方がいたのですが、それは間違いということですよね。

**（事務局）**　先の説明会において、参加された方からご質問として、「統合するのであれば何時ごろ」と問われました。その問いに対して、「まだそこまで決まったものはありませんが、最短で、何もなければ、事務手続き上、平成３２年です。ただし、実際には、様々な課題があるため、これ以後になる可能性は十分にある」とお答えしたものです。

**（座長）**　同じ説明会にいても本当に聞く側は自分の都合の良いように解釈をして入るのだなというのが本当に思いました。ただ、今日皆さんで色々な意見を見ていく中で、やっぱりちょっと元に戻ったほうが良いよねと思われる方が、もしいらっしゃるのであれば、また再検討をしていかないといけないとは思いますけれども、ここに書いてある気持ちは良く分かるが、進まないと仕方がないという風に、皆さん同じようなお気持ちでいてくださるということの理解で宜しいでしょうか？

細かい配慮が必要なのは重々わかります。だけれども大方針は決めていかないと事は進まないということで、検討委員会としては、統合という方向で、あとは細かい対応をしていくという話の結論としての説明会ですよね。

**（事務局）**　それでは今後のスケジュールですが、第７回の適正化検討委員会は３月下旬を繰り上げて、３月１７日にコミュニティセンターで説明会を開催します。座長と副座長の日程的にはいかがでしょうか？日程については、この後、学校の行事やＰＴＡの予定を確認して、重なっていなければ3月17日とします。

**（委員）**　午前中ですか？午後ですか？

**（事務局）**　できれば午前中が良いと思います。それから、今後の流れの確認ですが、この会議で確認した適正化検討委員会の考え方、説明会での意見も含めて検討した結果について、次の説明会で説明します。ここは丁寧に説明会を開催して、十分に説明し尽くすという本会の基本姿勢であることも、今日の会議で確認しました。

そして、その後、適正化検討委員会で「まとめ」を作って、教育委員会にご報告いただくという大きな流れになります。

説明会の日程については学校の日程確認とＰＴＡの行事の確認をさせていただいて、最終的に決定していきます。ただ会場は、この中山台コミュニティセンターの多目的ホールでさせていただきますので、ホールの空いている日ということになってきます。今、確認できたのは３月１７日ですが、土曜日と日曜日も候補に入れて検討はさせていただきたいと思います。説明会の詳細が決まりましたら、皆さま方にお知らせいたします。

**（座長）**　それでは、この説明会の日までに今までの審議経過をまとめたものと、説明会の案内を回覧していただけるということですね。

**（事務局）**　はい。そうです。

**（座長）**　ありがとうございます。

**（委員）**　説明会の案内は、今回は地域のみの形で宜しいですか？

**（事務局）**　はい。コミュニティに加入している自治会は、その自治会を通じて回覧します。自治会のない地区とコミュニティが違う自治会は事務局で各戸配布します。

**（座長）**　それでは、そういうことで、あと、何か意見ありますでしょうか？

**（副座長）**　私なりに感じたことで、あまり知られていないのかなと思うことが１点あります。幼稚園にも１５、１６年出入りしていますけれども、裏山を良く知っています。中山五月台小学校でもやっていることは良く知っています。中山五月台小学校の里山の話が出てくるのですが、実は中山桜台小学校の裏山、西側の（資料の地図の）ピンクエリアがあります。これは何かというと、「宝っこ夢の森」と言って、中山桜台小学校がここです。これ全体を含めて、自然休養林、農水省、林野庁が管理している国有林です。

中山桜台小学校から向こう側は全部、国有林で自然休養林で、すごくハイキングが盛んです。その一部を利用して、国有林の有効活用ということで、「ゆうゆうの森」という事業を林野庁がやっています。平成２０年か２１年くらいに、中山桜台小学校が使いたいということで、林野庁と教育委員会とコミュニティで協力して、このエリアを使って良いということにした。協定書を結びました。だいたいイメージはつくと思いますが、中山寺がここです。お寺の裏に川があります。谷がありますが、谷からこの折れ道まで全域です。ここを今でも中山桜台小学校は、行事でも使ったりしていますか？

**（中山桜台小学校長）**　はい。

**（副座長）**　中山桜台小学校から裏に入れるのです。この中に行って里山整理をしてみたり、自然観察をしたりする。これだけ広大なフィールドがあって、これは中山桜台小学校のためではなくて、宝塚市の人たちが使えるということで、その当時、私がニュータウンの自治会長も全員集めて、こういう話があるけど、いいかという話をしながら、他の小学校が来たら、中山らへんにバスで来るだろうと、中山観音の近くの駐車場があるので、中山寺自治会の会長にも話をしとけということで、教育委員会にしてもらって了解をもらった。

私が言いたいのは、中山桜台小学校だけじゃなくて、住民も使って良いはずです。もう一つ、この上は、特別緑地保全区域という都市計画の網がかけられています。このニュータウンの北の森は、形状を変更できません。開発はできない区域になっています。自然を大切にするということで。だからその一角を中山五月台小学校と中山五月台幼稚園が利用していますけれども、全体が自然に囲まれていると、国も市も含めてきちんと保存して、使おうというエリアです。こういうエリアがあるので、統合とかの話の中で、里山がなくなって、自然環境が子どもにとって何もなくなるということはないです。これだけのものがあるので、中山五月台小学校も今、使ったら良いと思う。関係している者からすると、もっともっと使ってほしい。この統合の話の中で、里山がなくなって、自然環境が良いところなのにというのは、こういうことも含めて整理してもらったら良いと思います。

育友会の中で論議があったらこういう話もあるということで含めて論議していただければと思います。以上です。

**（座長）**　ありがとうございます。今日の会の中で今後の予定に向けてもそうですが、何かご意見とか言い忘れたことがございましたら・・・

（委員）　説明会での意見を取りまとめた資料をいただきましたが、これはお見せしても良いのですか？

**（事務局）**　はい。市のホームページにも掲載しますので、差支えありません。

**（座長）**　細かく一人一人のご意見を、ここで出して検討した証にもなるので、中には意見を出しても、検討なんかしてもらえないと思っている方もいらっしゃったので、ちゃんと検討しましたという安心も皆さんにお伝えできれば良いと思いますので、こういう書いたものはどんどん発信しやすいと思うので、どうぞ有効に使ってもらって良いですよね。

**（事務局）**はい。是非、お願いします。

**（座長）**　それでは、事務局にお返しします。

**（事務局）**　はい、ありがとうございました。

**（西本管理室長）**　本日は、これまで以上に非常に中身のある、深く落とし込んだような形で議論をいただいて、良かったなと思います。反省すべき点としては、ＰＴＡの方からも意見をいただいたように、自分たちの役割、それからどうやって皆さんに知らせていけば良いのかというところが少し曖昧な状況で進んできたということについては反省をしております。私どものほうが適切に対応できれば良かったと思っております。

再度校区を区別することなく、全ての皆様に集まっていただいて、再度意見交換といいますか、そういう場をもつということについても、極めて丁寧なやり方で進めていけると思っております。

今後も引き続き、熱のある論議をお願いしたいと思っております。本日は誠にありがとうございました。

**（事務局）**　それでは、これでもって閉会いたします。長時間に渡ってご審議いただき、誠にありがとうございました。